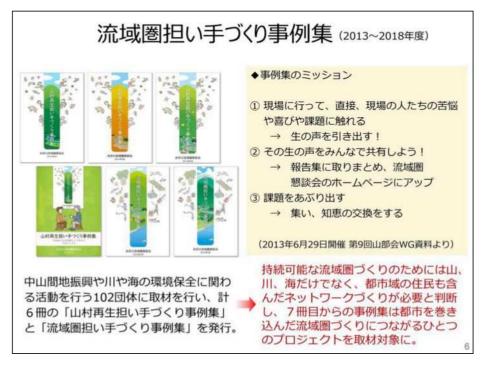
2024年度 流域圏担い手づくり事例集について

'25.2.7 豊田市矢作川研究所 洲崎燈子

【これまでの事例集づくりについて】

- ・中山間地の活性化を進め、過疎化や少子高齢化問題を解決に導く糸口として、持続可能な流域作りに関わる102団体に取材を行い、2013~2016年度にかけて4冊の「山村再生担い手作り事例集」を、2017~2018年度にかけて2冊の「流域圏担い手づくり事例集」を作成した。
- ・2019~20年度は事例集づくりを休止し、流域圏懇談会10年誌を作成。
- ・10年誌をつくったことで、都市を巻き込んだ流域圏づくりの必要性が認識されるようになり、2021年度以降の事例集は複数の方の取材・寄稿により、ひとつのテーマの立体像を描く様式に変更。2021年度は学童保育木造化プロジェクト、2022年度は錦二丁目都市の木質化プロジェクト、2023年度は伊勢湾・三河湾の豊かさを取り上げた。
- ・2017~19年度および2023~24年度には、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広めることをめざして「事例集交流会」を開催した。



('24.12.17 公開講座洲崎スライド)

【2024~2025年度の事例集】

- ・流域圏担い手づくり事例集IVは2024~2025年度にかけ、2冊に分けて作成。
- ・テーマはこれからの流域づくりのキーワードとなる「人口、税収の減少」「流域治水、水利用、 流域環境保全(ネイチャーポジティブ)を組み合わせた流域総合水管理」「地域住民が自分ごとと して取り組む防災」「(仮)伊勢湾流域圏大学」等とする。





('24.12.17 公開講座洲崎スライド)

- ・2024 年度版には 12 月 17 日に開催した公開講座「流域の視点から見た治水・環境と総合水管理」の記録を掲載し、流域総合水管理の理念を共有する。
- ・2025 年度版には、持続可能な流域に向けて研究や人材育成をしている諸団体・個人が既に(仮)伊勢湾流域圏大学の一端を担っていると位置付け、取材等によって紹介する。候補団体はとよた森林学校、山里ひとなる塾、矢作川研究所、鈴木辰吉氏(しきしまの家)、岐阜県立森林文化アカデミーなど。